

平成20年度第2回 経営協議会議事要録

日 時 平成20年6月23日(月) 14:00～16:25

場 所 事務局第1会議室

欠席者 川又委員、上月委員

配付資料

1. 平成19事業年度に係る業務の実績及び中期目標期間(平成16～19事業年度)に係る業務の実績に関する報告書
 - ・ 平成19事業年度に係る業務の実績及び中期目標期間(平成16～19事業年度)に係る業務の実績に関する報告書(資料編)
2. 国立大学法人茨城大学事業報告書(平成19年度)及び決算報告書
- 3-1. 学部・研究科等の現況調査表 教育
- 3-2. 学部・研究科等の現況調査表 研究
4. 中期目標の達成状況報告書
 - ・ 中期目標の達成状況報告書 茨城大学別添資料
 - ・ 「重点的に取り組む領域説明書(Ⅲ表)」整理表
 - ・ 項目・中期計画別の判定一覧
5. 平成19事業年度財務諸表
6. 茨城大学入学センター関係資料
7. 平成20年度補正予算(第一次)について
8. 平成20年度目的積立金整備事業一覧
9. 平成21年度概算要求に係る重点事項の概要
10. 平成20年度教育改善経費採択一覧

参考資料：茨城大学案内(2009)

平成19年度教員地域連携プロジェクト報告書

平成19年度学生地域参画プロジェクト報告書

議 事 概 要

議事に先立ち、学長から、鬼澤慎人委員の紹介があり委員から挨拶があった。続いて、学長から、田切評価室長(学長特別補佐)、荒川入学センター長及び新日本監査法人増田正志氏の会議陪席について提案があり、了承された。

I 議事要録の確認

平成19年度第5回経営協議会議事要録及び平成20年度第1回経営協議会議事要録について、原案のとおり確認された。

II 審議事項

- 1 平成19事業年度に係る業務の実績及び中期目標期間(平成16～19事業年度)に係る業務の実績に関する報告書について

学長から、平成20年6月30日までに国立大学法人評価委員会に提出する平成19事業年度に係る業務の実績及び中期目標期間(平成16～19事業年

度)に関する報告書について審議願いたい旨提案があり、さらに、山形理事及び田切評価室長から、内容について配付資料1に基づき補足説明があり、審議の結果、提案のとおり了承された。

なお、国立大学法人評価委員会に提出するまでに文言等の修正が生じた場合は、学長に一任することが併せて了承された。

2 平成19年度国立大学法人茨城大学事業報告書及び決算報告書について

学長から、平成20年6月30日までに文部科学大臣に提出する平成19年度茨城大学事業報告書及び決算報告書について審議願いたい旨提案があり、さらに、山形理事及び田切評価室長から、配付資料2に基づき内容について補足説明があり、審議の結果、提案のとおり了承された。

なお、文部科学大臣に提出するまでに文言等の修正が生じた場合は、学長に一任することが併せて了承された。

3 学部・研究科等の現況調査表について

学長から、平成20年6月30日までに国立大学法人評価委員会に提出する学部・研究科等の現況調査表について審議願いたい旨提案があり、さらに、山形理事及び田切評価室長から、内容について配付資料3-1及び3-2に基づき補足説明があり、審議の結果、提案のとおり了承された。

なお、国立大学法人評価委員会に提出するまでに文言等の修正が生じた場合は、学長に一任することが併せて了承された。

4 中期目標の達成状況報告書について

学長から、平成20年6月30日までに国立大学法人評価委員会に提出する中期目標の達成状況報告書について審議願いたい旨提案があり、さらに、山形理事及び田切評価室長から、内容について配付資料4に基づき補足説明があり、審議の結果、提案のとおり了承された。

なお、国立大学法人評価委員会に提出するまでに文言等の修正が生じた場合は、学長に一任することが併せて了承された。

5 平成19年度財務諸表について

学長から、平成19年度財務諸表について審議願いたい旨提案があり、さらに、長谷川理事から、内容について配付資料5に基づき補足説明があった。続いて、新日本監査法人増田正志氏から、監査内容及び国立大学法人会計基準等について、監査結果説明書に基づき説明があり、審議の結果、提案のとおり了承された。

なお、財務諸表は、文部科学大臣に提出するまでに文言等の修正が生じた場合は、学長に一任することが併せて了承された。

また、長谷川理事から、本財務諸表は、文部科学大臣の承認後に官報に掲載されるまで取扱いには注意願いたい旨発言があった。

6 茨城大学における入学者の確保方策について

学長から、本学における入学者の確保方策について意見を伺いたい旨発言があり、さらに、白井理事及び入学センター長から、配付資料6に基づき入学者

の確保方策について説明があり、意見交換が行われた。

委員から出された主な意見は次のとおり。

- 学外説明会や高等学校等での茨城大学説明会において、在學生を積極的に活用してはどうか。
- 特定の高等学校から多数の學生が入学している学校については、オープンキャンパスなどで当該高等学校出身の學生を配置した特設コーナーを設けて対応してはどうか。
- 18歳人口の減少の観点からも受験生の確保には限界がある。海外からの留學生確保について、特に東南アジアに目を向けて優秀な人材を確保してはどうか。このような入學者確保の戦略も練っていただきたい。
- 推薦入学の枠を広げてはどうか。何とか枠を広げて茨城県内出身者が多く入学できるようにしていただきたい。
- 大学に対する評価は學術研究に対する評価もさることながら、その大学出身者の質、能力をどう評価するかということもある。その意味で、民間企業がどこまで茨城大学出身者を評価しているかということがポイントだと思う。茨城大学に入学すると安定した就職先が他の大学以上に得られる、ということも大学を選択する要因になるのではないか。茨城大学出身者が活躍している例を挙げて、併せて企業からの評価も付けてオープンキャンパス等でアピールする、今の學生はシビアな人生観を持っているので入口の話だけではなくこのような話もしてはどうか。
- 広報活動について、大学案内のパンフレットには全然特徴がない。A4版4ページ程度で、茨城大学はこういう大学だということをまとめる、それだけで十分に大学の特性が分かるのではないか。代理店などに任せるのではなく、広報の分野を志望する學生に一度やらせてみても良いのではないか。
- 今までの茨城大学のブランドが何で、そのブランドをどう変えようとしているのかが分からない。例えば静岡県から多くの學生が茨大に入学しているが、その理由を分析することも必要ではないか。
- 入学している學生がなぜ茨大を選んでいるのかを分析すれば戦略を立てられる。入学している學生全員に聞いて見れば分かるし、そうすると茨城大学のブランドも分かる。今の大学、特に私立大学は売り物を一生懸命考える。売り物を作るためには、在學生がその大学を選んだ理由が分かっている、それを違う理由に変えさせていかないと新しい學生が入ってこない。そういったことを調べれば分かる話で、是非分析されてはどうか。
- 様々な理由で學生が大学を選んでいる中で、茨城大学のどの部分にフォーカスを当てているのか。例えば福島県の会津大学であれば、とにかくコンピュー

ターを勉強したいという学生が入ってくる。そういう特色があるからで、それがブランドである。今までであれば、国立大学は何でもありそうだから行ってみようかというのが多かったと思うが、戦略という言葉を使うのであればこの辺から検討を始めた方が良くと思う。

- 今の高校生が何を重視して大学を選んでいるかをきちんと分析する必要がある。そこに上手くミートできないと効果的な活動ができないと思う。
- 推薦入学にせよ一般入学にせよ、地元優先ということはあるのか。地元の学生が地元の大学に入って地元就職するというのが一番望ましいと思うので、そういった仕組みがあれば地元としては有り難いのだが。

III 報告事項

- 1 平成20年度茨城大学補正予算（第一次）について
長谷川理事から、平成20年度茨城大学補正予算（第一次）について、配付資料7に基づき報告があった。
 - 2 平成20年度目的積立金整備事業について
長谷川理事から、平成20年度目的積立金整備事業について、配付資料8に基づき報告があった。
 - 3 平成21年度概算要求について
長谷川理事から、平成21年度概算要求について、6月4日付け書面で審議願った内容で文部科学省に提出した旨報告があった。
 - 4 平成20年度政策配分経費（教育改革、研究推進、教育環境整備）について
長谷川理事から、平成20年度政策配分経費（教育改革、研究推進、教育環境整備）について、配付資料10に基づき報告があった。
 - 5 その他
 - (1) 経営協議会会議資料の公開について
学長から、経営協議会会議資料の公開について、確認があった。
 - (2) 学長の退任について
学長から、経営協議会議長として最後の会議となるため、退任の挨拶と謝辞があった。
- 次回経営協議会 9月下旬を予定